

民主化闘争情報

No. 930

2015年6月4日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

6月2日、参議院国土交通委員会においてJR会社法改正法案の審議が行われた。同委員会には参考人としてJR三島会社・貨物会社の社長ら経営幹部らが出席した。その中で次世代の党・和田政宗参議院議員はJR北海道の組合問題に触れ、「北鉄労(JR総連・JR北海道労組)と極左暴力集団革マル派との関係について説明は進んだのか」「最大労組の北鉄労についてその異常さが報道等でも指摘されている」などとJR総連・JR北海道労組を厳しく非難するとともに、JR北海道・島田社長に対し、健全な労使関係の構築を要請した。

JR会社法改正法案審議でJR北海道・島田社長 「間違っても労働組合の介入を疑われないよう 毅然とした対応をしていく」

(和田参議院議員) JR北海道は、安全管理体制の強化のため、四月に現場力向上に向けた講演会を開催予定だったということですが、なぜ中止になったのでしょうか。

(JR北海道・島田社長) JR東日本の方を講師に招き、当社の現場管理者の勉強会として企画したものです。正式に依頼ができていなかったもので、延期したものです。

(和田参議院議員) 中止になった理由として、JR北海道の最大労組・北鉄労などの威圧があったのではないかと指摘もあります。

(JR北海道・島田社長) ご指摘のような事実等はありません。

(和田参議院議員) JR北海道では、不祥事がこの半年、一年でも続いています。職場環境を見た場合に、最大労組の北鉄労についてその異常さが報道等でも指摘をされています。国土交通省に聞きますが、このような労働組合が存在することに対してどのように考えているのでしょうか。

(国交省・藤田鉄道局長) 企業風土を含めた経営全般についても、問題意識を持って対応に努めてまいります。

(和田参議院議員) 北鉄労は極左暴力集団革マル派との関係が取り沙汰されておりまして、警察庁は、革マル派との関係について鋭意解明に努めているとの答弁をしておりますが、その後、説明は進んだのでしょうか。

(警察庁・塩川官房審議官) JR北海道労組と革マル派との関係については、引き続き鋭意解明に努めているところでございます。

(和田参議院議員) 安倍総理がこの北鉄労の上部組織であるJR総連等についても言及しておりますので、鋭意、警察庁におかれましては解明をお願いしたいと思います。

島田社長、JR総連・JR北海道労組との蜜月関係の清算を示唆！？

(和田参議院議員) 社長は社会の目線にも応える開かれた労使関係にしなければならない、労組の意見に耳を傾けるが最終的には会社の責任で実行する、これまでそうした部分が欠けていたと述べています。この発言についてもう少し具体的に聞きたいのですけれども。

(JR北海道・島田社長) 会社施策の実施や職場規律の確立などについては、会社の責任と権限において実施していくべきものと認識しております。間違っても労働組合の介入を疑われないことにならないよう、今後も毅然とした対応をしていく所存でございます。

安心できる職場の構築にむけて、JR連合・JR北労組に結集しよう！